

# 看護学概論授業計画書（新）

（1単位 30時間）

担当講師 田中早苗

（実務経験有）

（学習目標）

- ①看護の対象となる人間とその健康について理解する。
- ②看護職者の教育・制度・組織や、看護に対する社会的要請などの多角的な観点から看護が理解できる。
- ③看護の理念、定義をもとに倫理観を養い、自己の看護観を培うことができる。

（実務経験を活かした実践的な教育）

- ・総合病院における臨床経験を活かし、老年看護学を担当。高齢者の加齢に伴う変化と特徴をとらえ、対象の QOL の維持・向上に向けた援助について授業を行う。

回数	授 業 内 容	講義の工夫・留意点、方法
1 2回	第1章 看護とは何か ・看護の本質 ・看護のさまざまな概念、定義について ・看護の役割と機能 ・看護の歴史的背景と現在の動向について （看護教育制度を踏まえる） ・これからの看護に求められる役割 ・看護実践のための理論的根拠	・グループワーク：学生の考える「看護」 ・看護の実践とはどのようなものかを「事例」を通してイメージできる。（看護過程） ・エビデンスに基づく看護とは何か、また、その重要性と考える力の必要性を説明できる。 ・看護理論とは何か。（大理論、中範囲理論、小理論について説明できる） ・理論家について「事例」を用いて学習する）
3 4 5回	「私のなりたい看護師像」 原稿用紙記入 第2章 看護の対象の理解 人間の「こころ」と「からだ」 生涯発達しつづける存在（発達理論） 人間の「暮らし」の理解	ビデオ（ナイチンゲール） グループワーク 「看護観」の提出 ・個人、家族、コミュニティの観点から看護の対象を考える。 ・4つのメタパラダイムについて
8 9 10 回	第3章 国民の健康・生活の全体像の把握 健康のとらえ方 「概念について」 国民の健康の全体像 ・国民のライフサイクルと健康・生活 （小児期から老年期に至るまでの健康上の特徴を理解する。） ・統計については小テストを実施する。	・健康観は時代や文化、人によって異なることを説明する。（4つのメタパラダイム参考） ・グループワーク ・夏休み中の課題「生活シート」「健康と生活を考える」を個人ワークとする。また、「大切な人の健康を守るための提案を考える」をグループで「課題解決策」を発表し、学生間で評価を行う。
11 13 回	第4章 看護の提供者 職業としての看護、 看護職の資格と養成にかかわる制度	グループワーク・発表（12回目） ・看護教育課程の違いを学習する
14 15 回	第5章 看護における倫理 現代社会と倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 看護実践における倫理問題への取り組み 「看護者の倫理綱領」	・看護になぜ倫理が必要かを再確認する。（法律） ・日本看護協会等の倫理綱領の内容を「事例」を用いて理解できる。 ・倫理的ジレンマとは、倫理的意思決定能力とは、を考える。

{評価方法} 試験、各レポートの提出状況・内容、グループワーク参加、欠席時は授業レポート提出

{学生へのメッセージ (学習ポイント)} 試験：95点満点 (+グループ点)

- ・看護の概念や理論、看護実践における知識・技術、看護実践の評価などの視点から、学問としての看護を考える。また、専門職として、人々の健康・生活へどのようにアプローチしていくかを考えましょう。
- ・自己の看護観を培いましょう。

科目：専門分野 基礎看護学技術論Ⅰ（新）	講義時期：1年生 時間数：28時間＋試験（計30時間）	担当講師：奥田ひとみ （実務経験有）
-------------------------	--------------------------------	-----------------------

### 授業目標

看護の基盤となる技術である看護過程を理解し、科学的思考に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につける  
（実践的な教育内容）

総合病院における数々の臨床経験を活かし、看護過程の基礎から各専門分野への展開について授業を行う。

### 授業の流れ（スケジュール・目標・テーマ・内容などの計画）

日時	内容	方法
1回目	◇看護過程とは ・看護過程の基になる考え方と理論	講義
2～5回目	◇看護過程の構成要素 ・アセスメント（情報収集・情報の分析） ・看護上の問題の特定（看護診断） ・計画	講義・演習
6・7回目	◇アセスメントガイド	講義
8回目	・実施 ・評価	講義・演習
9～11回目	◇看護過程演習 事例を用いて・・・（情報の整理・分析）	講義・演習
12～14回目 中期	◇看護過程演習（分析） ◇看護記録	講義・演習

テーマ・時間は変更することがあります

### 受講上の注意

- ☆ 看護過程用ファイル（A4サイズ）、インデックス、付箋、ペーパーファスナーを各自準備してください。
- ☆ 授業中の私語は慎んでください。
- ☆ 積極的に参加してください。
- ☆ 評価はレポート、授業態度も対象とします。

### 評価方法

筆記試験  
授業態度  
レポート  
（内容・提出期限なども加味します）

### テキスト

基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（メチカルフレンド社）

## 授業計画書

科目名：基礎看護学技術論 II (新)	講義時期：6月～11月 時間数：30時間	担当講師：永田 祐子 先生 (実務経験有)
(テーマと授業内容) ・生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について修得する ・フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて学習する。 ・呼吸困難を軽減する援助方法を学習する。 ・寒冷・温熱刺激が生体に及ぼす影響を理解し、効果的・効率的な罨法援助方法を修得する。	実務経験を活かした実践的な授業・ ・総合病院での臨床経験を活かし、フィジカルアセスメントの具体的な手法について授業する。  使用する視聴覚教材 <input type="checkbox"/> ノートパソコン <input type="checkbox"/> ラジカセ、プロジェクター <input type="checkbox"/> 書画カメラ、ビデオ・DVD	
授業の流れ (スケジュール・目標・テーマ・内容等の計画) 1回 第2編 看護の共通基本技術 第1章 ヘルスアセスメント I 看護におけるヘルスアセスメント II フィジカルアセスメント A 体表解剖とフィジカルアセスメント B フィジカルアセスメントにおける基本技術 C 一般状態のアセスメント ① バイタルサイン 2回                      1. 体温のアセスメント 2. 脈拍のアセスメント 3回                      3. 血圧のアセスメント 4回                      4. 呼吸のアセスメント 5回                      5. 意識状態のアセスメント 6回                      D 一般状態のアセスメント ② 身体測定 *身体計測演習* 7回 第5編 診療に伴う技術 第1章 呼吸・循環を整える技術 I 呼吸の意義とアセスメント A 呼吸の意義としくみ B 呼吸状態のアセスメントと呼吸を整える援助の基本 8回                      II 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 1. 呼吸を楽にする姿勢 2. 呼吸を楽にする呼吸法 9回                      III 気道分泌物の排出の援助 A 体位ドレナージ B 一時的吸引		

- 10回 IV 酸素吸入療法  
 A 酸素吸入療法の概要  
 B 酸素吸入療法の方法
- 11回 V 胸腔ドレナージ
- 12回 II フィジカルアセスメント \*バイタルサイン測定・聴診の演習\*
- 13回 E 系統的なフィジカルアセスメントの実際  
 1. 体表面のアセスメント  
 2. 呼吸器系のアセスメント  
 3. 循環器系のアセスメント  
 4. 腹部・消化器系のアセスメント
- 14回 VI 体温管理・保温の援助  
 A 体温管理・保温の基礎知識  
 B 冷罨法  
 C 温罨法
- 15回 終講テスト

受講上の注意：

積極的かつ主体的に学習に取り組むこと  
 疑問点は遠慮なく質問すること

評価方法：

授業内課題・授業態度・終講  
 試験などで総合的に評価する

テキスト： メジカルフレンド 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ  
 メジカルフレンド 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ  
 医学書院 基礎・臨床看護技術

視聴覚教材： DVD 「フィジカルアセスメントの所見」  
 「腹部・筋骨格・神経」  
 ビデオ 「循環器系のアセスメント」  
 「呼吸器のアセスメント」  
 「気管内吸引と肺理学療法」

基礎看護学技術論 III (新)

1 単位 30 時間 (28 時 + 2 時間)

担当講師：丹羽 久実 (実務経験有)

授業の目標 日常生活援助を中心に看護に必要な基礎的知識・技術・態度を理解し、科学的根拠に基づいて実践できる能力を身につける

(実践的な教育内容)

総合病院における病棟勤務の経験を活かし、日常生活援助を中心に、看護に必要な基礎的技術を科学的根拠に基づいて実践できる方法について授業を行う。

授業回数	授業内容	学習方略
第 1 回	・基礎看護技術とは ・コミュニケーションの基礎	講義
第 2 回	・コミュニケーションの基礎知識 ・看護におけるコミュニケーション	講義
第 3 回	・看護師のみだしなみについて	講義・グループワーク
第 4 回	・グループワーク発表	発表
第 5 回	・環境の諸要素とその調整	講義
第 6 回	・病室と病床の環境調整	講義・ビデオ
第 7 回	・ベッドメイキング ・臥床患者のリネン交換	演習
第 8 回	・食事摂取の意義としくみ	講義・ビデオ
第 9 回	・患者への食事の援助	講義・グループワーク
第 10 回	・食事介助の演習	演習
第 11 回	・非経口的栄養摂取の援助 経管栄養法・中心静脈栄養法	講義・ビデオ
第 12 回	・排泄の意義としくみ	講義・ビデオ
第 13 回	・排泄のアセスメント ・排泄障害のある患者の援助	講義・ビデオ
第 14 回	・排泄に関する処置	講義・ビデオ
第 15 回	・筆記試験	

評価方法 : 筆記試験

## 学生へのメッセージ

- ・ 病人の環境である病床環境を、快適な日常生活が送れるように整えるための知識と援助技術を身に付けましょう。
- ・ 患者—看護師間の人間関係を形成するに当たって、コミュニケーション能力は必要不可欠です。社会生活におけるコミュニケーションの意義、患者と看護師のコミュニケーションに関する知識を身に付け、また看護におけるコミュニケーションを理解しましょう。
- ・ グループワークでは専門職業人を目指す学生として、自分の意見を積極的に発言し、他者の意見も聞きましょう。
- ・ 健康生活における食事の意義を理解し、食事制限や機能の障害が対象に及ぼす影響を理解すると共に、それぞれの対象に適した食事援助の方法を習得しましょう。
- ・ 排泄の意義および患者の尊厳を踏まえた援助の基本を理解し、病態やADLに合った排泄援助技術を修得しましょう。

備考： 教科書 メディカルフレンド社 基礎看護技術  
I・II  
副読本 医学書院 基礎・臨床看護技術

関連科目： 解剖生理学 栄養学

専門分野 成人看護学総論 シラバス	1 単位 (30 時間) 15 回 + 終講試験	(新)	担当講師：奥田ひとみ (実務経験有)
<p>&lt;授業目標&gt;</p> <p>①成人期にある人の特徴を理解し、健康を保持していく為の看護援助が理解できる。</p> <p>②健康レベルにおける枠組みや必要な支援を理解できる。</p> <p>③成人看護に使用される理論・モデルが理解できる。</p> <p>(実践的な教育内容)</p> <p>総合病院における病棟勤務の臨床経験を活かし、成人看護学を担当、成人の特性と健康問題の特徴及び成人の特性に応じた看護の展開方法について授業を行う。</p>			
授業回数	授業内容	学習方略	
1 回目 2 回目	ライフサイクルの中での成人の位置づけ 成人各期の発達段階について	講義 グループワーク 発表	
3 回目	成人の生活・健康 大人の学習の特徴と看護	講義	
4 回目	成人における健康障害の特徴、予防とその対策 生活習慣に関する健康障害	講義 グループワーク	
5 回目	成人保健の動向 健康日本21 ヘルスプロモーション 自己効力感 エンパワメントなど	講義	
6 回目	成人における健康障害の特徴、予防とその対策 職業に関する健康障害 生活のストレスに関する健康障害	講義 グループワーク	
7 回目 8 回目	治療を必要とする対象 (急性期、回復・リハビリテーション、慢性期、終末期)	講義 グループワーク	
9 回目 10 回目		発表 書画カメラ	
11 回目	補足内容と理論家について	講義	
12 回目 13 回目	がんと共生を促す看護技術 (放射線療法)	講義	
14 回目 15 回目	がんと共生を促す看護技術 (化学療法)	講義 (黒木講師)	
キーワード 健康日本21 自己効力感 ヘルスプロモーション アンドラゴジー	備考 使用教科書： 成人看護学総論 (医学書院) 基礎・臨床看護技術 書画カメラ・パワーポイント	評価方法 終講試験、 提出物、 学習・グループワーク 態度	



